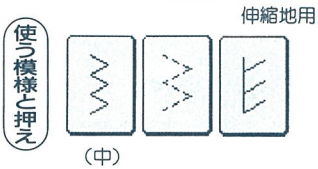
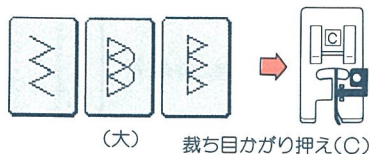


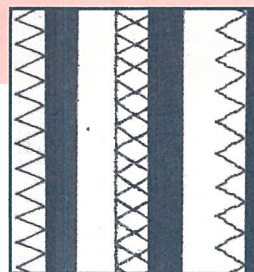
裁ち目かがり (縁かがり)



基本押え(A)



裁ち目かがり押え(C)



注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

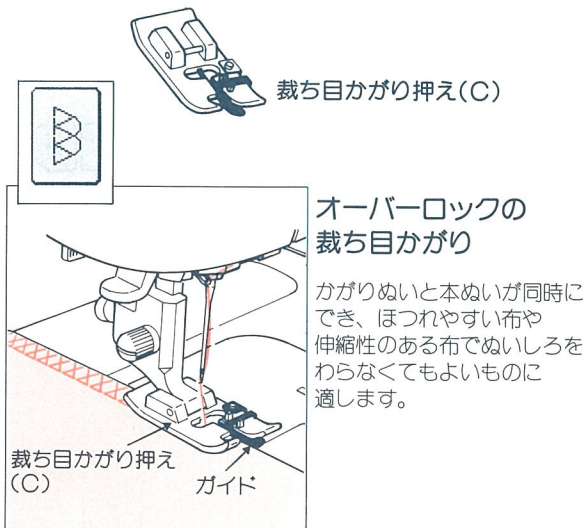
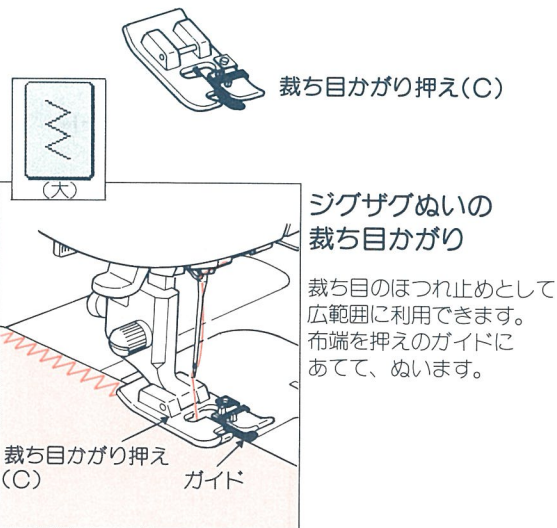
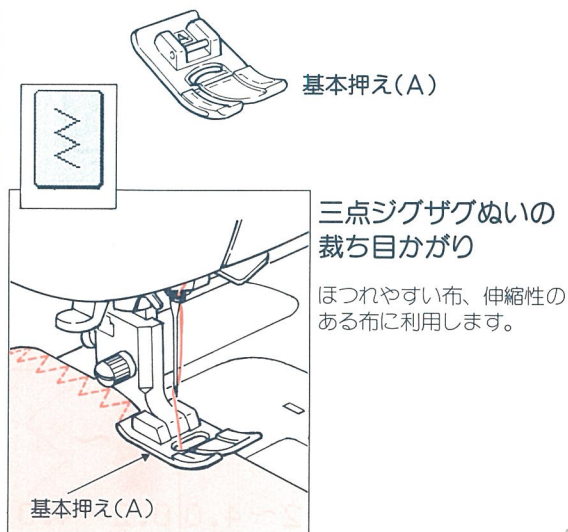
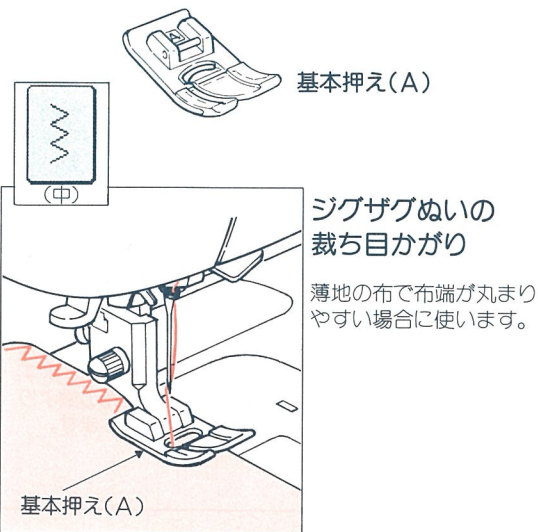
布地の裁ち目がほつれるのを防ぐために用います。

ご注意：裁ち目かがり押え(C)は

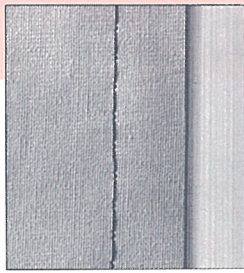
ジグザグ(大) と 縁かがり模様 だけに

ご使用ください。

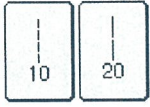
その他の模様は押えに針がぶつかります。



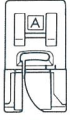
しつけぬい



選ぶ模様



使う押え



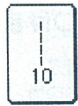
基本押え(A)

まつりぬいやファスナーつけなど、このしつけぬいをしますと、あとの糸ぬきが簡単にできます。

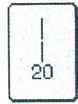
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



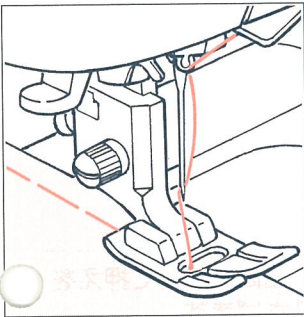
液晶画面に説明があります。



: 1センチごとの針落ち(ぬい目)になります。



: 2センチごとの針落ち(ぬい目)になります。



模様を選んでからスタートさせます。

フリー刺しゅう



実用ぬい

選ぶ模様



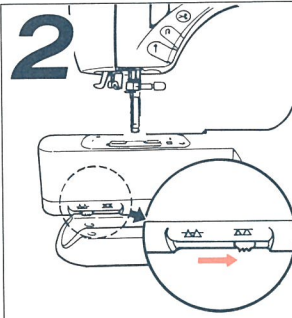
使う押え

市販の刺しゅう枠を使って手で送るフリー刺しゅうが楽しめます。

注意 押えホルダーを外すときは電源スイッチを切ってください。



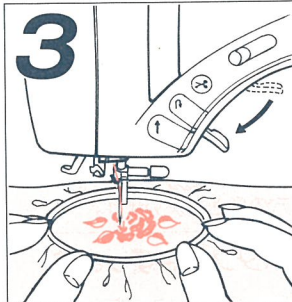
1 押えホルダーを外します。



2 ドロップフィードつまみを右側にします。

送り歯が針板の上に出ないため、布地を送りません。

ご注意：通常ぬいのため、ご使用後は、必ず左側に戻してください。



3 布地に下絵をかい、手で送ります。

コントローラー(別売)を使うとスムーズにぬえます。

自動ボタン穴かがり 両かん止め / ハトメ穴かがり

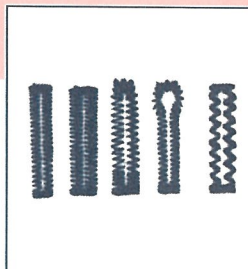
選ぶ模様



使う押え



ボタン穴
かがり押え(E)

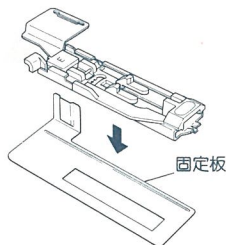







注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

薄地や段部近べんのぬいにくいボタン穴かがりには、固定板をセットするとスムーズにぬうことができます。

固定板と押えの間に布地を入れてぬってください。

(※調子をつよくします。)



-  薄い布地(シャツ、ブラウスなど)の小さいボタンに /
-  普通の布地で大きめのボタンに /
-  薄い布地(シャツ、ブラウスなど)の大きいボタンに /
-  厚い布地(スーツ、オーバーなど)の大きいボタンに /
-  ニット地に /



液晶画面に説明があります。

1 糸を横に出します。
上糸を押えの下へくぐらせます。

10センチ

2 一度押えを下げて、ボタンをセットします。
かがり穴の長さはボタンをセットするだけで自動的に決ります。
(押えにボタンがのらないときは、ボタンの直径+ボタンの厚みが、かがり穴の長さです。)

ボタンをセットしたら、スライド部分を押し、穴の長さを決めます。

スライド部分

3 ボタンをはずします。
長さが決まりましたらボタンをはずします。

4 布地に印をつけます。
ボタン穴の位置にチャコでI印をつけます。

印

5 布地を入れます。

布地

6 印に合わせて押えをさげます。
印を押えの針穴の中心に正しくセットして、押えをさげます。

印の交差した位置

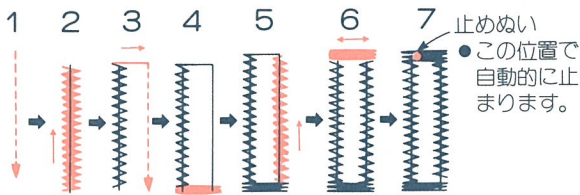
7 ボタン穴かがりレバーをさげます。
レバーを止まる場所までさげます。

ボタン穴かがりレバー

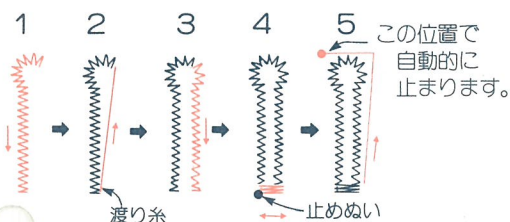
レバーをさげないと画面に「ボタン穴かがりレバーの表示が出てミシンが動きません」の表示が出てミシンが動きません。

自動ボタン穴かがり パールぬい

●自動ボタン穴かがりのぬわれる順序



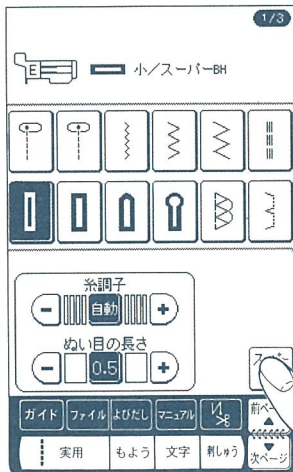
止めぬい
●この位置で自動的に止まります。



この位置で自動的に止まります。



表布上で上糸と下糸の重なりが山となり、手ぬい風になります。

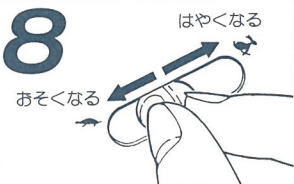


ボタン穴かがりを選び、

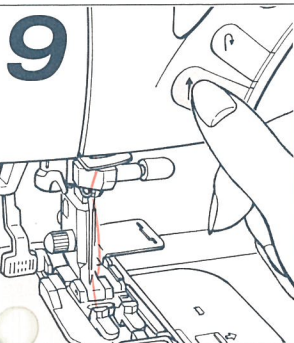
スーパーBHを押します。

スーパーBHがスーパーBHに反転します。

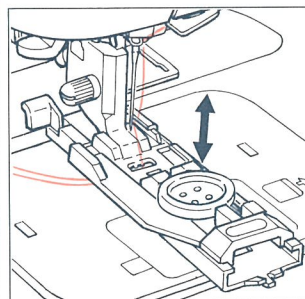
画面上に表示されます。



ぬい速度を決めます。

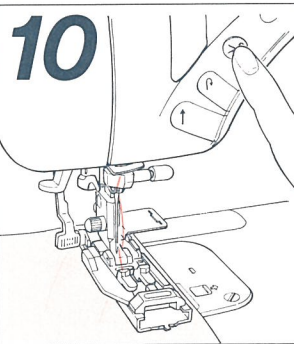


スタートさせます。
スタート・ストップスイッチを押します。



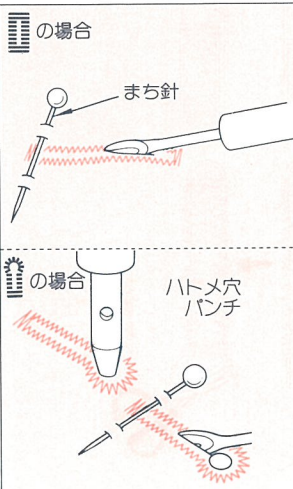
ぬう順序は自動ボタン穴かがりと同じです。

※パールぬいするとき、古い糸など切れやすい糸は、糸調子を自動よりよわめにして下さい。



ぬい終わったら糸を切ります。
糸切りボタンを押します。
※ボタン穴の2個目からは布地の次の印に合わせて押えをさげてぬうことができます。

ボタン穴のあけ方



リッパーで穴をあけます。

リッパーでぬい糸を切らないように中央の布地を切り開きます。かん止めの所にまち針をさしますと切りすぎがありません。

厚紙などを下にして、ハトメ穴パンチで穴をあけてから、リッパーを使ってください。

※ボタン穴の大きさをまちがえたり、途中で糸切れしたときは、ミシンを止めて模様を選びなおして最初からぬってください。

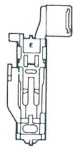
自動ボタン穴かがり 芯入りボタン穴かがり

選ぶ模様



芯糸を入れてぬうとボタン穴の伸びを防ぎ、丈夫なボタン穴かがりができます。
芯糸にはレース糸、穴糸などを使用します。

使う押え



ボタン穴かがり押え (E)

注意

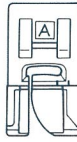
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

伸縮強化ぬい

選ぶ模様



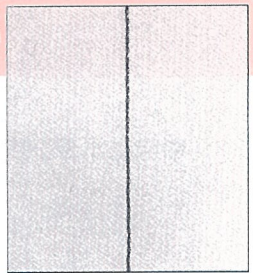
使う押え



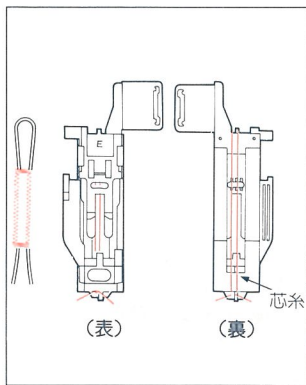
基本押え(A)

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



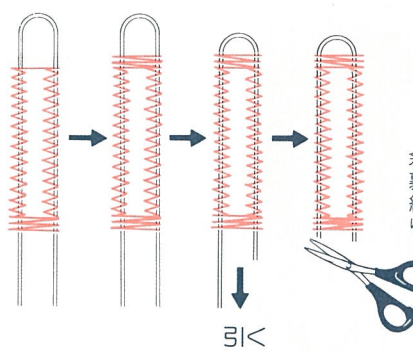
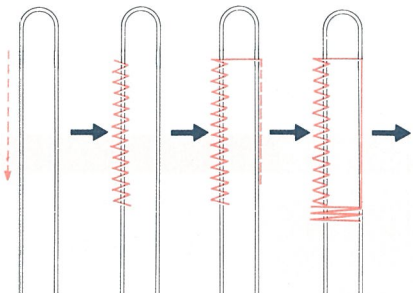
伸縮性のある布地や、力がかかってほつれやすい部分などに使うとぬい目がしっかりします。



芯入りボタン穴かがりの芯のかけ方

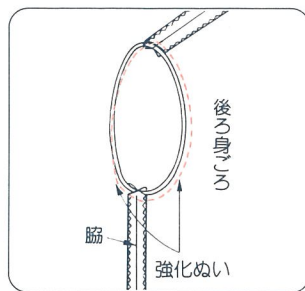
芯糸をボタン穴かがり押えの裏側の先端にひっかけて裏側の手前側を結びます。

そのままボタン穴かがり押えを取りつけて穴かがりをすれば、芯糸入りのボタン穴かがりができます。

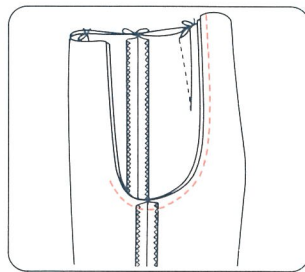


余分な芯糸は裏側に出して結んでから切ります。

引く



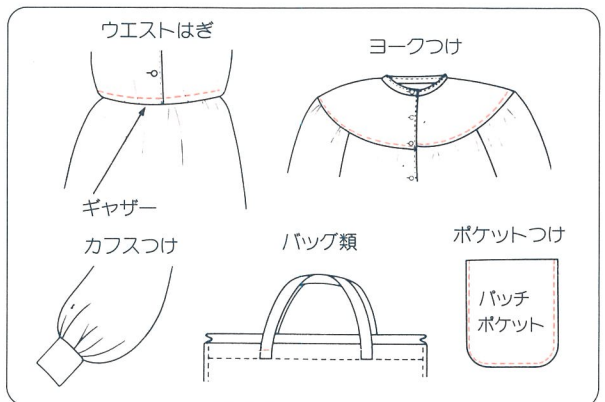
●袖つけ
後ろ袖や、袖下に力がかかりほつれやすいところに使います。



●パンツ類の股ぐり
二度ぬいするときに便利です。

●その他

ぬい合わせる布の一方にギャザーやタック、プリーツなどが入っているとき(ウエストはぎ、カフスつけ、ヨークつけなど)使うと、ぬい目がしっかりとできあがります。



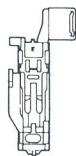
かん止め

実用ぬい

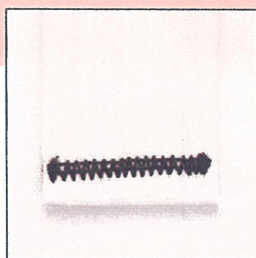
選ぶ模様



使う押え



ボタン穴
かがり押え
(E)



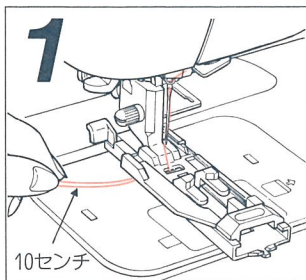
力がかかって、ほつれやすい部分に使うとぬい目がしっかりとします。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

* かん止めの長さは返しぬいスイッチを押すことで決まりますが、最長20針までで自動的にUターンします。

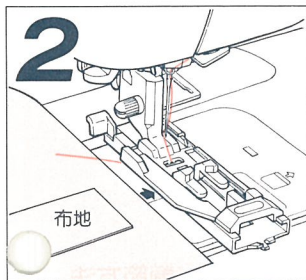
* 段部などで押えが水平にならないときはあて布や厚紙をご使用ください。

■使用例

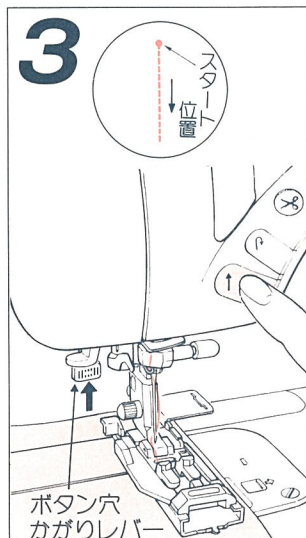


糸を横に出します。

上糸を押えの下へくぐらせます。



布地を入れます。



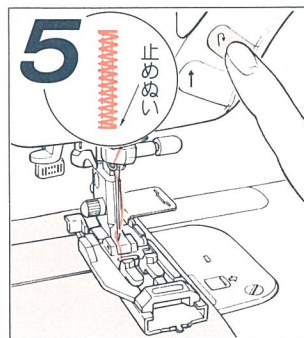
ボタン穴かがりレバーを上げたままスタートさせます。

スタート・ストップスイッチを押すと直線ステッチが始まります。



所定の位置で返しぬいスイッチを押します。

すると、スタート位置へ直線ステッチで返し、ふたたび自動的にジグザグぬいで戻ってきます。



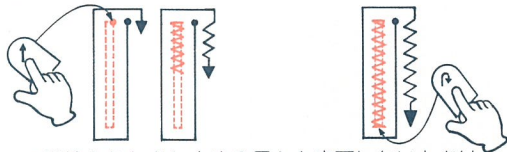
所定の位置まできたら返しぬいスイッチを押します。

止めぬいをして止まります。

同じ長さのかん止めをつづけてぬうには……

1つ目のかん止めの長さが記憶されていますので

- スタート・スイッチを押すと自動的にUターンします。
- ぬい終り位置にきたら返しぬいスイッチを押してください。

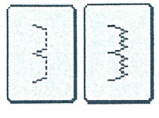


* 記憶されたかん止めの長さを変更したいときは、もう一度、模様を選びなおしてください。

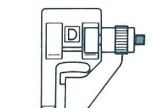
実用ぬい

(まつりぬい) ブラインドステッチ

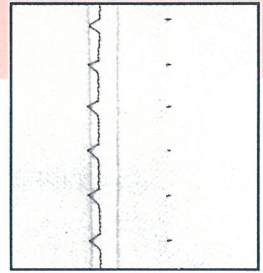
選ぶ模様



使う押え



ブラインドステッチ 押え(D)



スカートやワンピースなどのすそのまつりがかたんにできます。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



: 普通地用



: 伸縮地(ジャージー、ニット地など)用



1 布(裏) できあがり線

裁ち目がかりをします。
●裁ち目がかりは27ページ参照
●しつけぬいは28ページ参照

2 0.5~0.6センチ 布(裏) しつけ できあがり線

しつけをします。

3 布(裏)

しつけより折ります。

布(裏)

※0.5~0.6センチ出します。

4 0.5~0.6センチ 布(裏) できあがり線

5 布(裏) ガイド

折り山を押えのガイドにあててぬいます。

押えのガイドを折り山にピッタリあててぬいます。

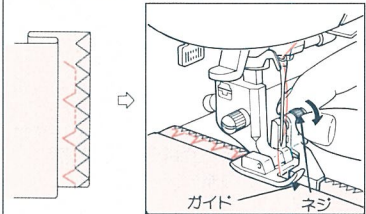
6 布(裏) できあがり線

布地をかえします。

布地をかえて、できあがりを整えます。

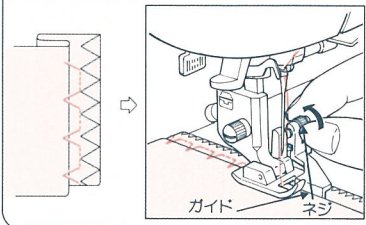
●ブラインドステッチ押えのガイド調節方法

折り山にぬい目がかからない場合



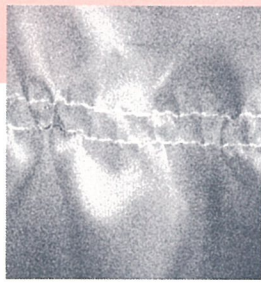
ネジを手前に回しますとガイドは右へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。

折り山にぬい目がかかりすぎた場合



ネジを向こう側に回しますとガイドが左へずれます。ずれたガイドに布の折り山をピッタリつけます。

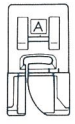
いせ込み、ギャザーの寄せ方



選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)

いせ込みをする場合：
袖山やスカートのウエスト
など外から布地のちぢめさ
せたのが見えないものに。
ギャザーをいれる場合：
袖口やヨークなどに。

注意

押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。



液晶画面に
説明があります。

1

ぬい目の長さを
3.0~4.0にします。

2

上糸をよわくします。

3

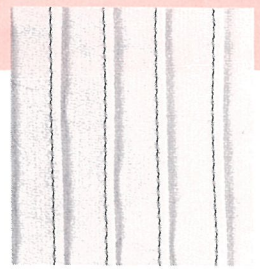
ぬい始め、ぬい終わりに
上、下糸を5センチ位
出して2本平行に
ぬいます。

ぬい終わりは5センチ以上
布地を引き出して、糸切り
ボタンを押してください。

4

下糸を手で引いて
布地をちぢめます。

ピンタック

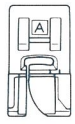


実用ぬい

選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)

ブラウスの前身頃やエプロ
ンの装飾などに利用します。

注意

押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。



ぬい方
液晶画面に
説明があります。

1

ピンタックの折り山を
アイロンで折り
整えます。

2

折り山を伸ばさない
ようにぬいます。

(ブラインドステッチ押えの
ガイドを利用するときれいに
できます。)

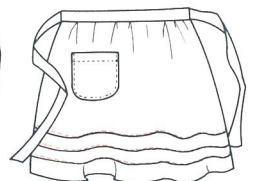
3

ぬい終わったら片返し
にして、アイロンを
かけ、整えます。

■応用例

●ブラウス

●エプロン

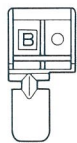


脇あき ファスナーつけ

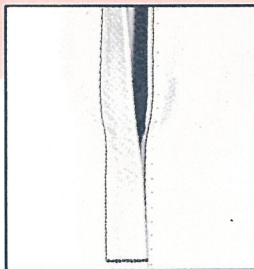
選ぶ模様



使う押え



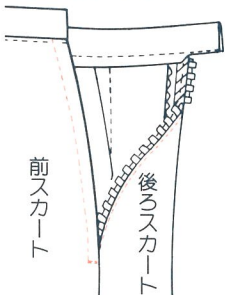
ファスナー押え(B)



スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

●スカートの例

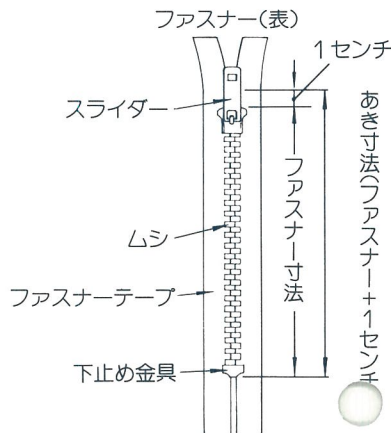


必ず左基線の直線でぬってください。

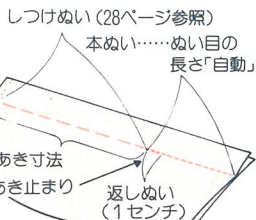
キーを押すと自動的に設定されます。



液晶画面に説明があります。

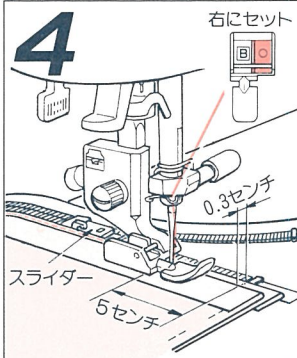


1



基本押え (A) を使ってぬいます。

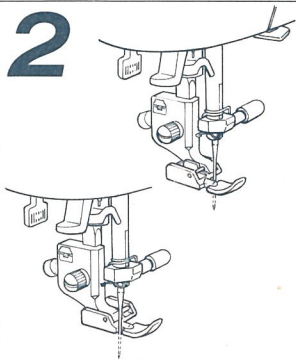
4



左側をあき止まりからぬいます。

0.3センチ幅の中央をあき止まりからぬいます。手前5センチ位でミシンを止めて、スライダーを向こう側へさげて、端までぬいます。

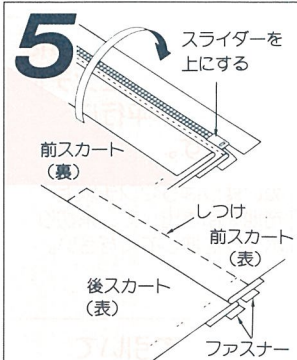
2



ファスナー押え (B) をセットします。

ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは、左へセットします。

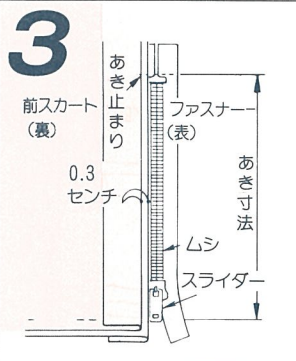
5



前スカートをかえしてしつけをします。

※布とファスナーテープを手のしつけで止めます。

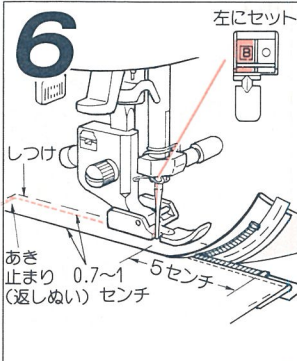
3



ぬいしろをわります。

ぬいしろをわり、後ろスカートのぬいしろを0.3センチ出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をムシのきわにあてます。

6



あき止まりを返しぬいして、右側をぬいます。

返しぬいしたあと、押えの左端をムシにきわに当て0.7~1センチのミシンをかけます。手前5センチ位のところでしつけぬいのぬい目をほどこき、押えの向こう側までスライダーをさげます。そして残りの部分をぬいます。

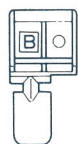
つき合わせ ファスナーつけ

実用ぬい

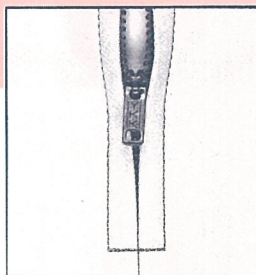
選ぶ模様



使う押え



ファスナー押え(B)



バック、クッション、カバー類に使われるファスナーつけの方法です。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



必ず左基線の直線でぬってください。

実用 キーを押すと自動的に設定されます。



液晶画面に説明があります。

1

しつけぬい (28ページ参照)
本ぬい……ぬい目の長さ「自動」

あき寸法
あき止まり
返しぬい (1センチ)

基本押え (A) を使ってぬいます。

4

右にセット

ぬい目から0.7~1センチ

布(表)

ファスナーテープ

左側をあき止まりからぬいます。

ぬい目から0.7~1センチはなして、あき止まりより上に向かってミシンをかけます。

2

スライダー

しつけ

しつけ

ファスナー(裏)

△シ

布(裏)

ファスナーをしつけます。

ぬいしろをわり、ぬい目線とファスナーの△シの中心を合わせて表まで手のしつけで止めつけます。スライダーは上に倒します。

5

左にセット

あき止まり
返しぬい

0.7~1センチ

右側をぬいます。

あき止まりを返しぬいで丈夫にぬい止め、もう一方も0.7~1センチはなしてミシンをかけます。

3

ファスナー押え (B) をセットします。

ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。

6

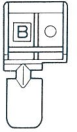
しつけぬいの部分のみほどきます。

小物づくりのファスナーつけ

選ぶ模様



使う押え



ファスナー押え(B)



ファスナーテープが見えるつけ方でポーチやバックに使われる方法です。

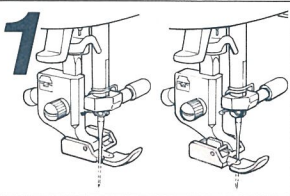
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

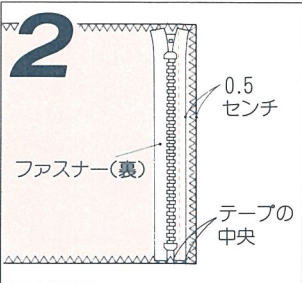


必ず左基線の直線でぬってください。

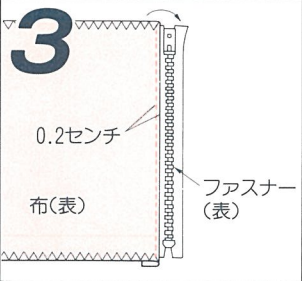
実用 キーを押すと自動的に設定されます。



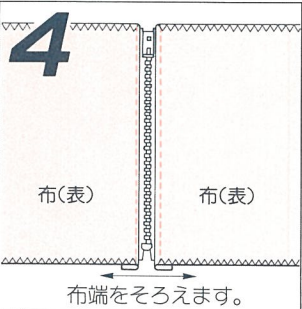
1 ファスナーの左側をぬうときは押えの右へセットします。右側をぬうときは左へセットします。



2 裁ち目がかりをした布地から0.5センチずらして裏にしたファスナーの片側テープの中央にミシンをかけます。



3 1.でぬったところからファスナーをかえて、その上から0.2センチのところへミシンをかけます。



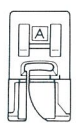
4 もう片方の布地も1,2と同じようにぬいつけます。

三点ジグザグ

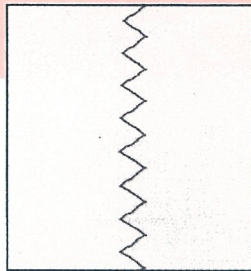
選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)



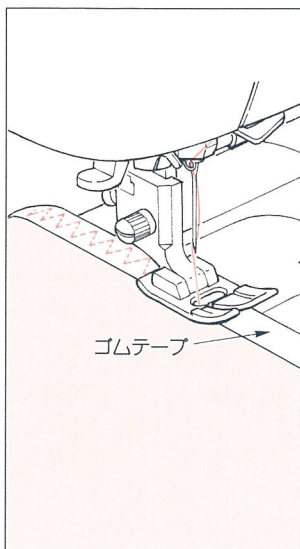
ゴムテープ、のび止めテープ、インサイドベルトを布地にぬい止める場合や伸縮素材の裁ち目がかりなどに、三点ジグザグぬいを使います。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

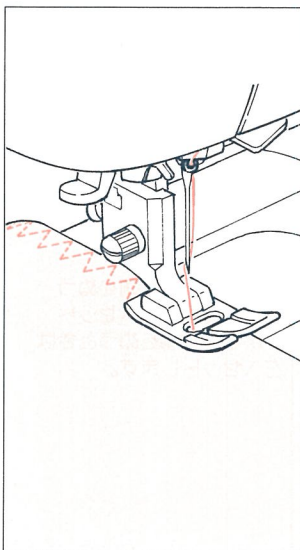
三点ジグザグのテープつけの場合

押え調節レバーを「よわい」にし、ゴムテープは前後にのばしながらぬいます。



三点ジグザグの裁ち目がかりの場合

ほつれやすい布、伸縮性のある布に利用します。布端に針が落ちるようにぬいます。

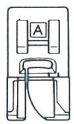


伏せぬい

選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)

丈夫できれに端の仕上げを始末するときに使います。

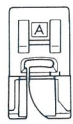
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

アップリケ

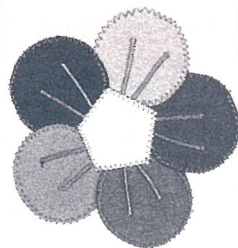
選ぶ模様



使う押え



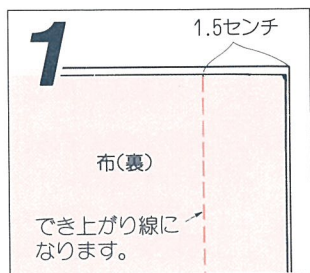
基本押え(A)



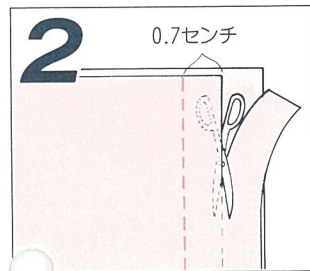
市販のアップリケ布や、自分で切り抜いたアップリケ布を丈夫に、簡単にぬいつけられます。

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

実用ぬい



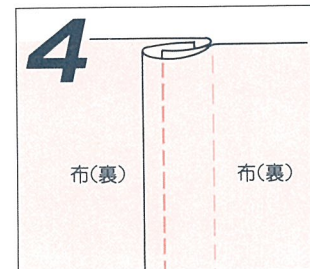
1 布地を合わせてぬいます。



2 ぬいしろの半分を裁ち落とします。



3 でき上がり線を軸に布地を広げ2枚一緒に倒してアイロンをかけます。

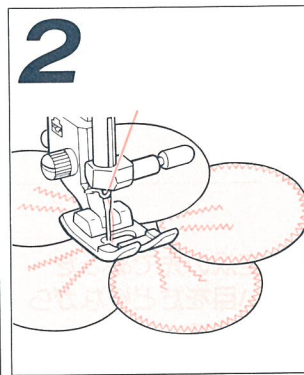


4 短いぬいしろを長いぬいしろでくるみ、折り山の端をぬいます。

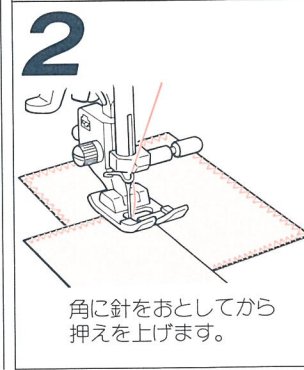


1 アップリケ布を止めます。

アップリケ布を正確にのりづけ、またはしつけ止めて当て布をあててかるくアイロンで押えます。



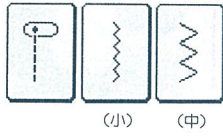
2 アップリケの布端を裁ち目がかりと同じ要領でぬいつけます。ぬい始めと終りは返しぬいスイッチを押して止めぬいをします。カーブの強いものは振り幅(小)のジグザグ模様を選びます。



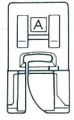
2 急角度のところや、布地の方向を変えるときは、アップリケの布端に針をおとした状態で方向を変えるようにします。

キルティング

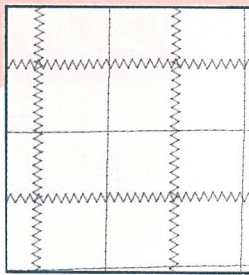
選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)



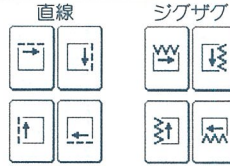
2枚の布地を合わせ、平行にぬい目を入れていく方法で、布地の間に綿などを入れると、防寒や、装飾に役立ちます。

⚠ 注意

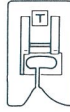
押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

横送り(四方ぬい)

選ぶ模様



使う押え



模様押え(T)



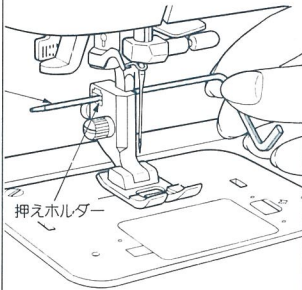
出来上がった袖やズボンの筒にワッペンをつける場合に便利です。押えを上げずに外周をぬい付けることができます。

⚠ 注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

直線ぬいとジグザグぬいの好みの方を選びます。

1



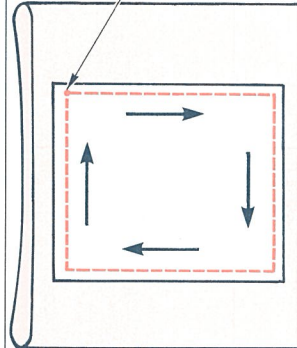
押えホルダーのみぞに棒定規を差し込みます。

(例：直線)

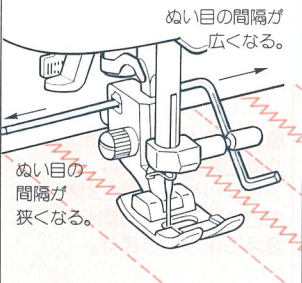
スタート位置を決めて

- (1) [] を押し、角までぬいストップさせます。
- (2) [] を押し、ぬいます。
- (3) 次に [] を！
- (4) 最後に [] を押して一周ぬわれます。

スタート位置



2



棒定規の先でぬったぬい目をたどりながらぬいます。

左右の間隔が自由に調節できます。

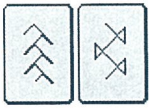
ぬい目の間隔が
広くなる。

ぬい目の
間隔が
狭くなる。

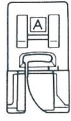
パッチワーク



選ぶ模様



使う押え



基本押え(A)

模様ぬいを使っているいろいろな布をはぎ合わせます。残り布などを活用し、小物類や室内装飾に応用します。

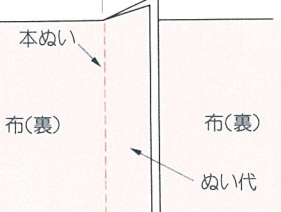
注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



1

1センチ



●重ねはぎ

2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいた後、ぬいしろを片返しにします。

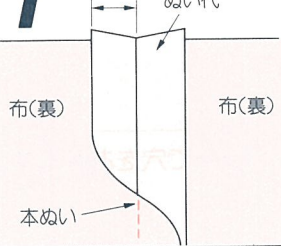
2



両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

1

1センチ



●割りはぎ

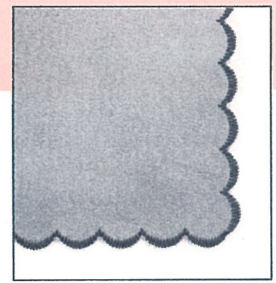
2枚の布地を中表に合わせ、本ぬいた後ぬいしろをきれいに割ります。

2



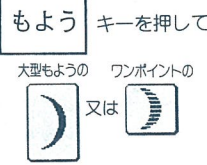
突き合わせになっている表布から両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

スカラップ 貝がらぬい

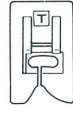


実用ぬい

選ぶ模様



使う押え



模様押え(T)

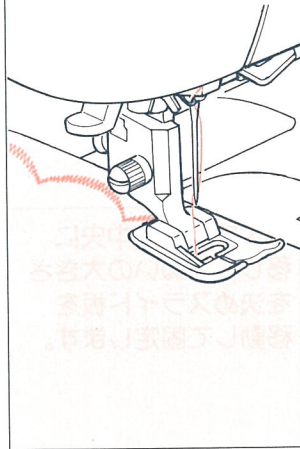
テーブルクロスやブラウスの襟など、ふち飾りに使います。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

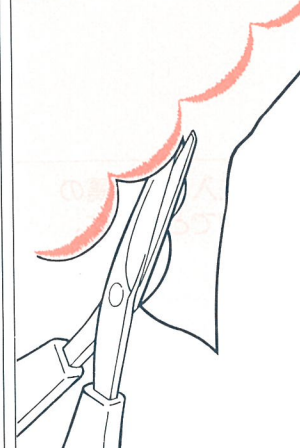
1

布端に模様がかからないように端を残してぬいます。



2

糸をきらないようにぬい目にそって切ります。

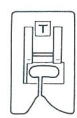


実用ぬい

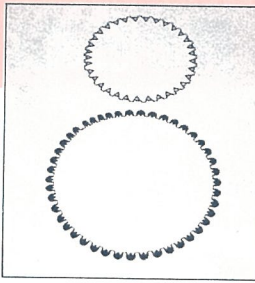
サークル スタッチ 円ぬい

選ぶ模様 実用ぬい・ワンポイント・連続もよう・文字（大型以外）の模様が使えます。ワンポイントと文字は連続ぬいにして下さい。

使う押え



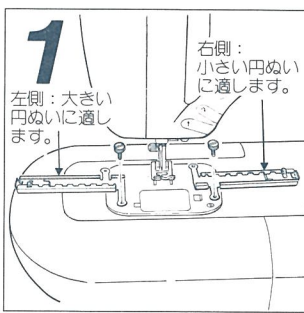
模様押え(T)



コースターやワッペンの外周に応用できます。

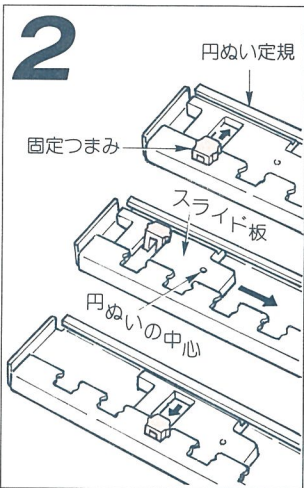
注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

※模様の選び方は45～51ページ参照。
※模様を選んだあと連続を押します。



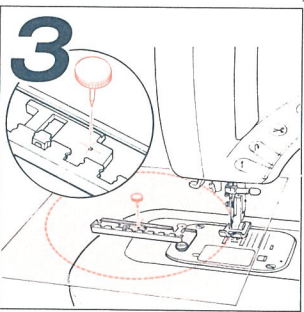
1 左側：大きい円ぬいに適します。 右側：小さい円ぬいに適します。

円ぬい定規を針板の左又は右側へ付属のネジでとめます。



2 円ぬい定規 固定つまみ スライド板 円ぬいの中心

固定つまみを中央に移し、円ぬいの大きさを決めスライド板を移動して固定します。

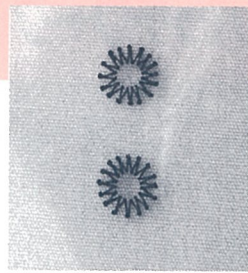


3

布地を入れて付属のビョウでとめます。


※ぬい始めとぬい終りの糸は10センチ位長くしてぬい針で表側の糸を裏側にして結びます。

アイレット

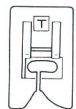


選ぶ模様

もよう キーを押して

ワンポイントの 

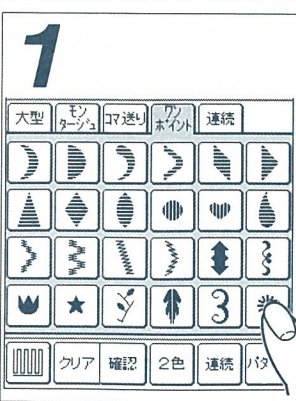
使う押え




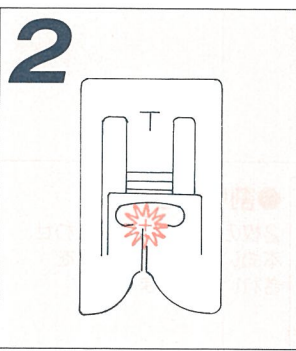
模様押え(T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

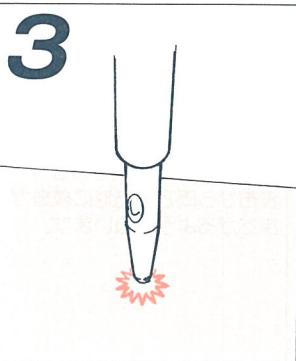
ベルトなどの穴かぎりに使います。



1  の模様を選びます。



2 針落ち位置を確認してぬいます。



3 パンチで穴をあけます。

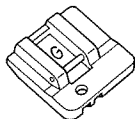
実用ぬいの別売 押え・コントローラーのご紹介

実用ぬい

ホームソーイングをさらに楽しくする……別売品

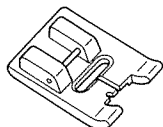
このミシンのお買い上げ店、または当社サービスセンターでお求めください。

●コンシール押え



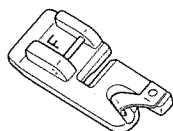
コンシールファスナーつけに便利です。

●手動BH押え



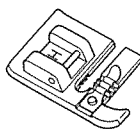
ぬいしろの重なっている部分のボタン穴かがりにご利用ください。

●三つ巻き押え



シャツやブラウスの裾、フリルやスカーフの縁の始末などに使います。

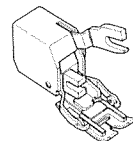
●ひもつけ押え



毛糸、ししゅう糸、穴糸などのひもつけに使います。子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。

布づれ防止に……

●上送りアタッチメント

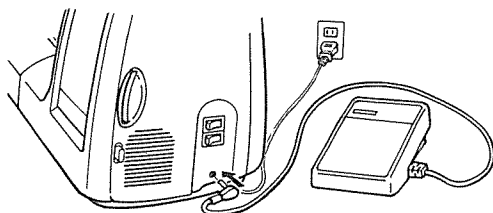


一般にミシンで送りにくい素材に使います。

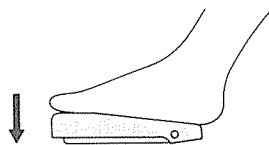
コントローラーを使いますと足の操作でスタート・ストップからスピードコントロールもできます。

注意 ミシンにセットしてあるコントローラーの上に物をのせないでください。

※コントローラーを使うときは、スタート・ストップスイッチはストップのみ有効です。



コントローラーのプラグをミシンのコンセントに差し込みます。



コントローラーを踏みますと、ミシンがスタートし、速度も調節できます。足をはなしますと、ミシンは止まります。針は布に入ったまま止まります。

返しぬいをするときは、返しぬいスイッチを押します。

別売押え

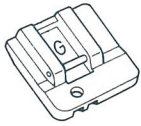
コンシール押え / 手動BH押え

コンシール押え

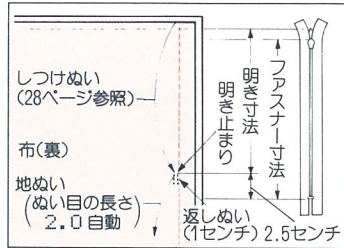
ファスナーあき寸法をたしかめ
1 基本押え(A)でぬいます。

2

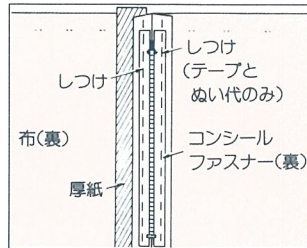
3



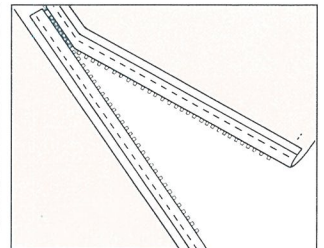
使う模様



布地を中表に合わせて布端よりあき止まりまでしつけぬいでぬい、あき止まりからぬい目を(2.0)に変えて1センチ返しぬいをし、所定の位置までぬいます。ぬいしろをきちんととりまします。

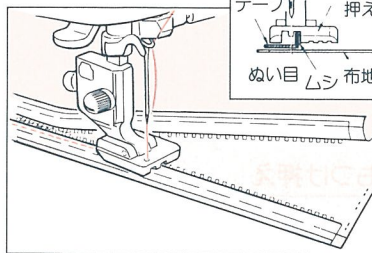
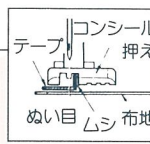


ぬい目線の上にコンシールファスナーの中心をのせて、ぬいしろと表布の間に厚紙を入れ、ぬいしろとファスナーテープを両側とも手のしつけでぬい止めまします。しつけが終わったら厚紙をとります。



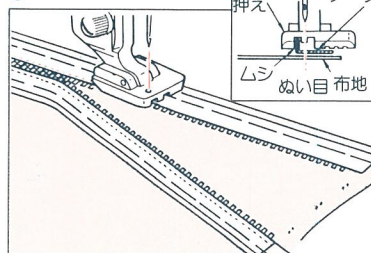
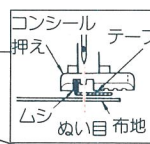
1 図のあき止まりまでぬったしつけぬいをほどこき、ファスナーを開きます。

4

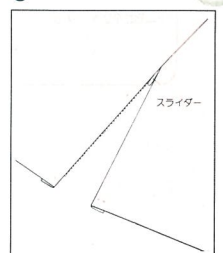


ファスナーのぬい目が布地の裏に出ないので、つき合わせの状態であきの始末ができます。

5



6



もう一方のぬいしろも同じ方法でぬい合わせまします。スライダーを中より出し、ぬいしろにぬいつけられずに残ります。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

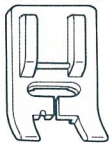
一方のぬいしろをファスナーのムシを押えのみぞに合わせて、指でムシを立てるようにして、ムシのきわにあき止まりよりミシンをかけまします。

手動BH押え

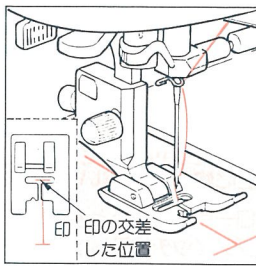
1

2

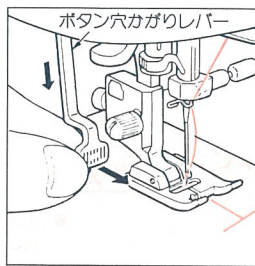
3



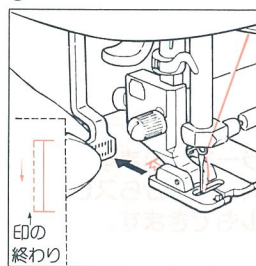
使う模様



布地にボタン穴かがりの印をつけます。針を上げたまま印の交差した位置を押えの針穴の中心に合わせて、押えをさげまします。



ボタン穴かがりレバーをさげて軽く手前に引き、スタートボタンを押してぬいはじめまします。
●左側の直線ぬいがはじまらまします。

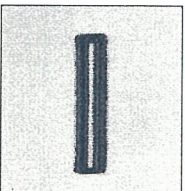


印の終わりに針がでたとき、ボタン穴かがりレバーを向こう側に軽く押まします。
●バックで左側のぬいがはじまらまします。

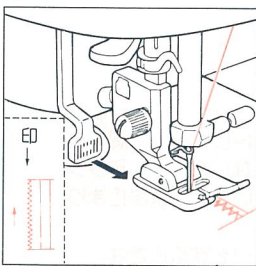
4

5

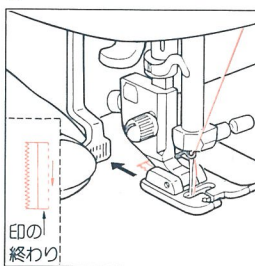
6



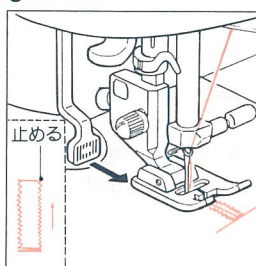
厚地の布を使った短冊あきや台枠の部分に穴かがりをする場合に用います。



最初の印に針ができたとき、レバーを軽く手前に引きまします。
●右側の直線ぬいがはじまらまします。



印の終わりに針がでたとき、レバーを向こう側に押しまします。
●手前のカン止めをぬってバックで右側のぬいがはじまらまします。



最初の印に針ができたとき、レバーを軽く手前に引くとカン止め、止めぬいをして止まらまします。

ご注意

1. 布がレバーに触れないようにしまします。レバーが押されるとカン止めに切り替わってしまいまします。
2. 失敗したときは、ミシン止め、模様選択キーをもう一度押しましますと、最初から、ぬうことができます。

注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

三つ巻き押え／ひもつけ押え／上送りアタッチメント

三つ巻き押え

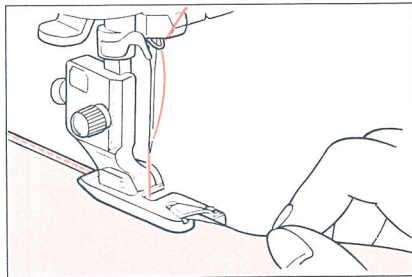
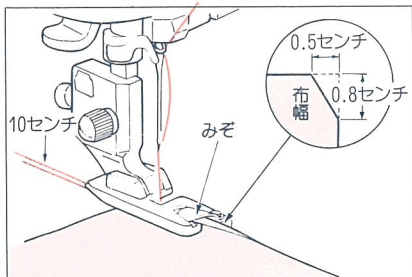
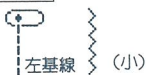


注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



使う模様



布地を巻きこみやすくするため角を少し切り、押えのうず状のみぞの中に、布地を針がとどくところまで入れてから針をおろして押えをさげます。

上下の糸端を左手で引き、手ではずみ車を3~4回まわし、正しく巻きこまれたら、右手の親指と人さし指で布地をつまみ、常に適量がくり入れられるようにしてぬいます。

布端を三つ折りにしながらぬっていく方法で、シャツやブラウスの裾、フリルやハンカチの縁の始末などに使います。

ひもつけ押え

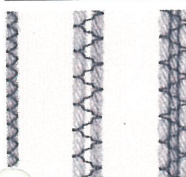
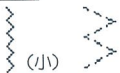


注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



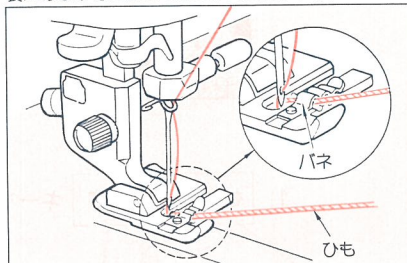
使う模様



糸、ししゅう糸、穴糸などのひもを使い、子供服やエプロン、インテリア小物に応用します。1本から3本のひもつけができます。

1本つけ

1本の場合は左端にひもを通し、ひもの先端を押えの裏にあるみぞにはめてから押えをさげます。

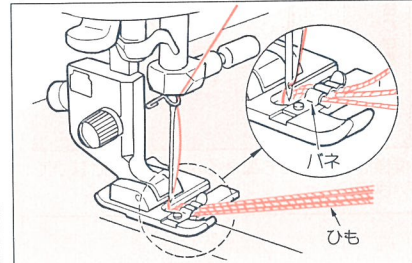


張り幅(小)のジグザグ模様でぬい止めます。ぬい始めとぬい終りに返しぬいボタンを押して止めぬいをします。

ひもは布地の裏に引き出して結び切ります。

3本つけ

3本の場合は全部にひもを通し、ひもの先端は1本の場合と同じように押えの裏のみぞにはめて押えをさげます。



三点ジグザグの模様でぬい止めます。1本の場合と同じように止めぬいをして、ひもを布地の裏に出して結び切ります。

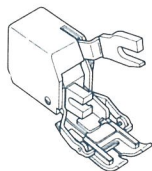
※2本つけの場合はひもを押えの両端にセットします。

布づれ防止に…… 上送りアタッチメント

直線ぬい(たて送り)だけにお使い下さい。
※左右送り直線・ジグザグ・模様ぬいには使わないでください。



注意 押えホルダーや上送りタッチメントの取り付け取り外しには、電源スイッチを切ってください。

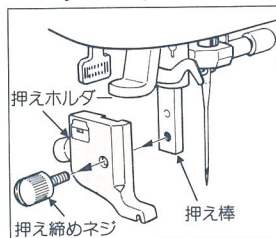


使う模様



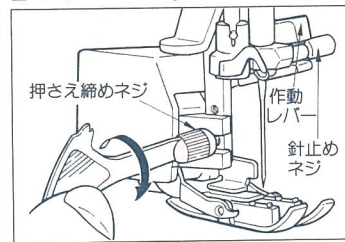
一般にミシンで送りにくい素材(ニット、ジャージー、ビニールクロス、人工皮革、皮など)に使います。滑らかな送りで布ズレを防ぎ、きれいなぬい上りになります。

押えホルダーを 1はずします。



押え棒をあげて押え締めネジをはずし、押えホルダーをはずします。

上送りアタッチメントを 2とりつけます。



作動レバーの二また部分に針止めを入れ、とりつけ部を押え棒にはめこみ、押え締めネジをしっかりしめます。

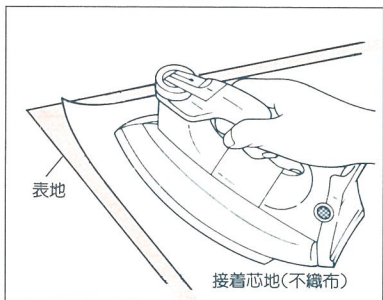
※ぬい速度はゆっくりから中ぐらいでぬいます。

※ニット、ジャージーなど伸縮性のある素材は押え調節レバーを「よわい」にします。

大型もよう / モンターシュ / コマ送り / ワンポイント 連続もよう / 文字をぬうには...

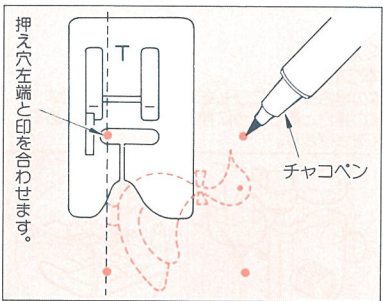
ぬう前の準備

- きれいに大型模様をぬうためには芯地をはり、ためしぬい(55ページ参照)をしましょう。



裏面に接着芯地(不織布)をアイロンで接着させます。(アイロン温度は低温~中温です)
※不織布の接着芯地は反接着タイプを使います。

- 付属のステッチガイドシートで、布地に印をつけますと、模様の配置が決まります。



模様は筒ぬいでもぬえるよう横向きになっています。

模様・文字の選び方

自動止めぬい表示

使う押え



メモリ表示
模様や文字を選ぶと自動的にメモリされます。メモリされた数だけマスの目が黒くなります。(最大40コマまで)

画面
画面上の模様・文字を表示を指で押しますと、画面の上の方に表示されます。表示された模様や文字をぬうことができます。

操作キー

選択キー

※ [大型] [モンターシュ] [コマ送り] [ワンポイント] [連続] を押すと、その項目の画面が現れます。

1. もよう か 文字 キーを押します。

2. 5つのうちお好みのもようを押します。
([大型] [モンターシュ] [コマ送り] [ワンポイント] [連続])

例: [大型]

3. 画面に現れた模様を指で押します。

4. 画面の上の方へ表示された模様をぬうことができます。


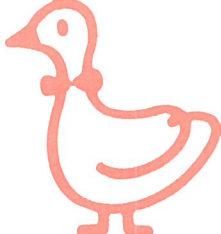










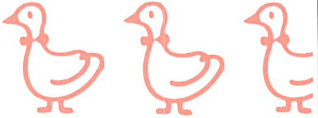


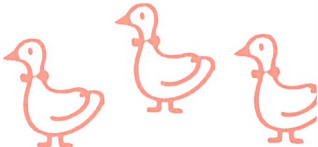
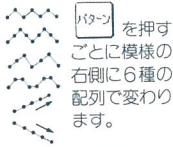
2. 6つのうちお好みの文字を押します。
([あいう] [アイウ] [年12] [5.1?] [ABab] [✓] [あ])

例: [あいう]






3. 画面に現れた文字を指で押します。

4. 画面の上の方へ表示された文字をぬうことができます。

画面の表示のはたらき

画面表示	ぬえる模様(例)	画面表示
 1度押すと拡大、 2度押すと縮小になります。	 <hr/> 	 <hr/> 
	 標準サイズの反転です。	
	2色ぬい可能模様です。 	 反転します。
		 反転します。
		

操作キーのはたらき

操作キー	はたらき
	選んだ模様や文字を保存できるキーです。
	保存した模様や文字をよびだすキーです。
	糸調子・ぬい目の長さの画面を呼び出すキーです。
 	前ページ キーは前の画面 次ページ キーは次の画面を呼び出すキーです。



ためしぬいをするときに使います。
(55ページ参照)



記憶した模様を一度押すごとに後ろから順に消していきます。3秒以上押すとオールクリア(すべてが消える)になります。



多くの文字を記憶したときの確認ができます。



押したところから、たてがきになります。

たてがき → たてがき
押す



大型もようぬい

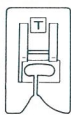
使う模様

もよう

を押してお好みの模様を選びます。

使う押え

模様押え (T)



注意

押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

画面の模様の出し方

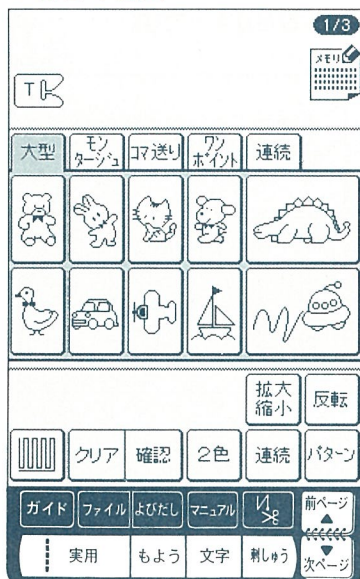


を押すと次の画面に、

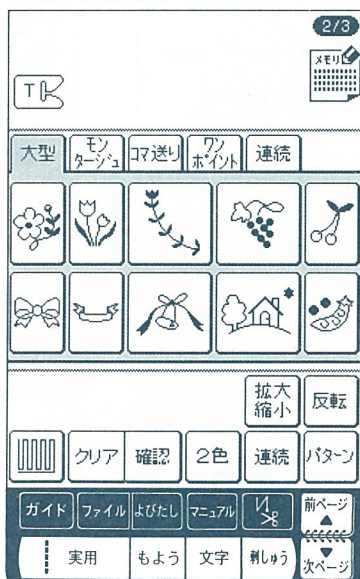


を押すと前の画面に戻ります。

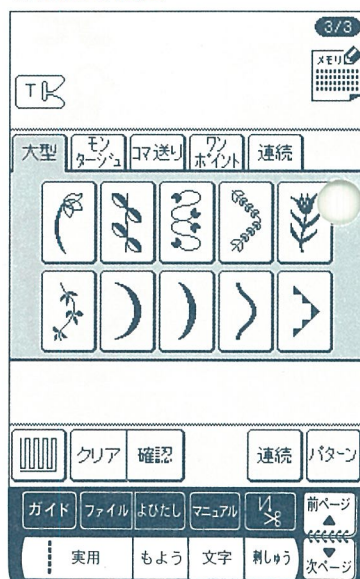
1 番目の画面



2 番目の画面



3 番目の画面

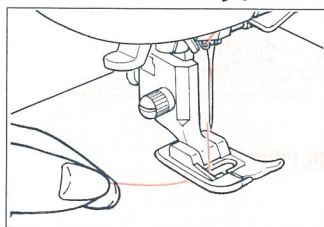


ぬい模様を選ぶには

上記3画面よりお好みの模様を選び画面の上を指で押します。



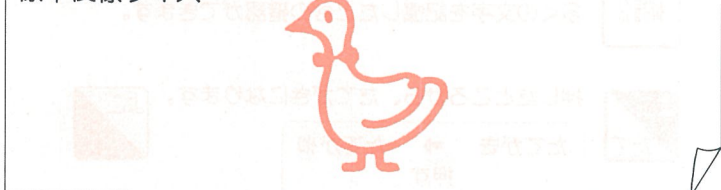
1 布地を入れて
2 スタートさせます。



ぬい上がると自動的に止まります。

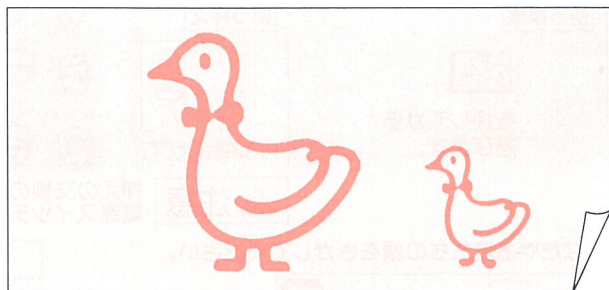
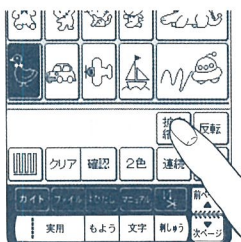


標準模様サイズ



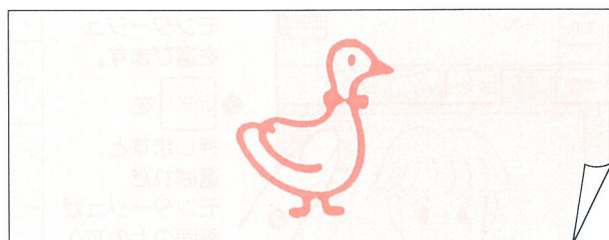
拡大縮小ぬい

1. 模様を選びます。
2. **拡大縮小** を押します。
 ◎1度押すと拡大、
 2度押すと縮小になります。
3. スタートさせます。



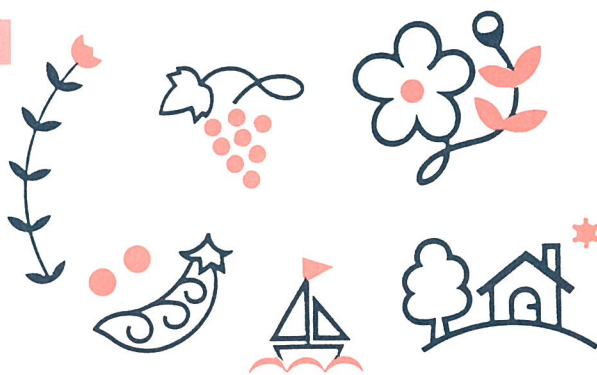
反転ぬい

1. 模様を選びます。
2. **反転** を押します。
3. スタートさせます。
 ◎拡大、縮小もできます。



2色ぬい

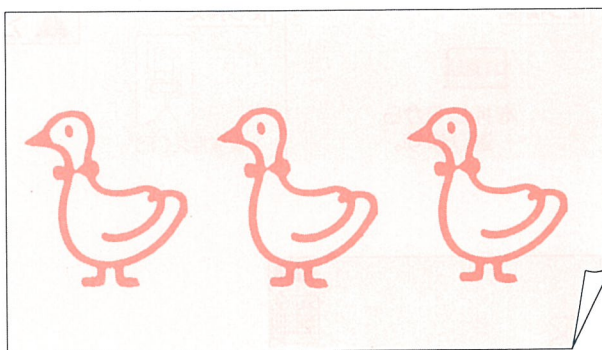
右の模様を選び下糸と上糸の色をかえて、**2色** を押してぬいめると布上に下糸が出てきて2色になります。



連続ぬい

1. 模様を選びます。
2. **連続** を押します。
3. スタートさせます。
4. ストップさせるまでぬい続けます。

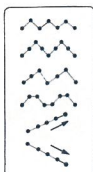
※最後の模様をきちんとぬい終わらせたい場合は最後の模様をぬい始めたら再度 **連続** を押すとその模様をぬい終わって止まります。



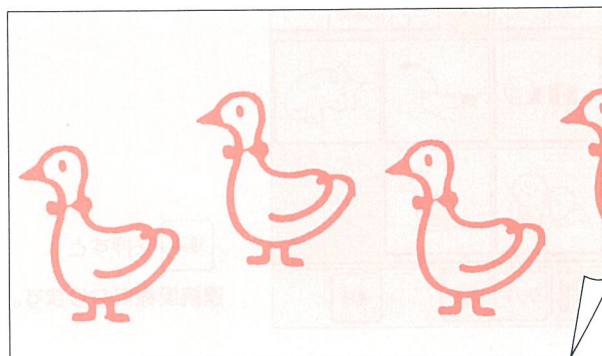
パターンぬい

連続ぬいで配置を変えてぬいめます。

配置の種類



1. 模様を選びます。
2. **パターン** を押します。
 ※ **パターン** を1度押すごとに画面に配置の種類が表示されます。
3. スタートさせます。
4. ストップさせるまでぬい続けます。



モンタージュぬい



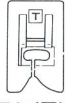
文字ぬいと組み合わせてプレゼント品にお友だちの似顔をつけるのも一考です。

使う模様



を押してから選びます。

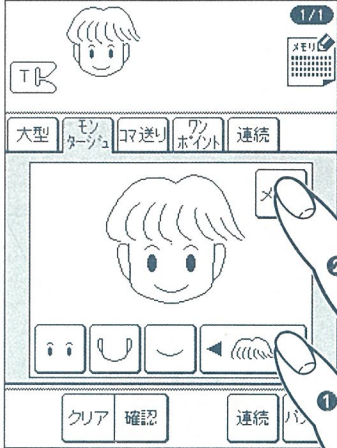
使う押え



模様押え(T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。

あなたやお友だちの顔をさがしてください。



- ① お好みのモンタージュを選びます。
- ② メモリを押しますと、選ばれたモンタージュが画面の上の方へ現れます。

種類	

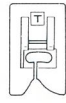
コマ送り

使う模様



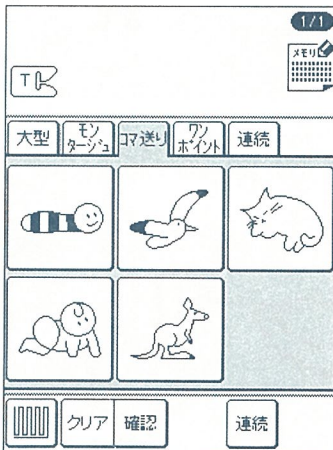
を押してから選びます。

使う押え

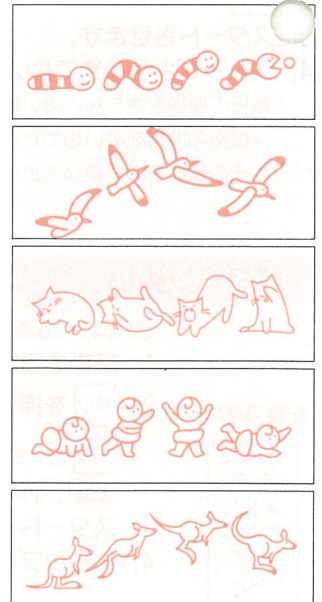


模様押え(T)

注意 押えの交換のときは電源スイッチを切ってください。



連続を押すと連続模様になります。



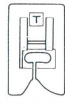
ワンポイントぬい

使う模様



を押してから
選びます。

使う押え



模様押え(T)



注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

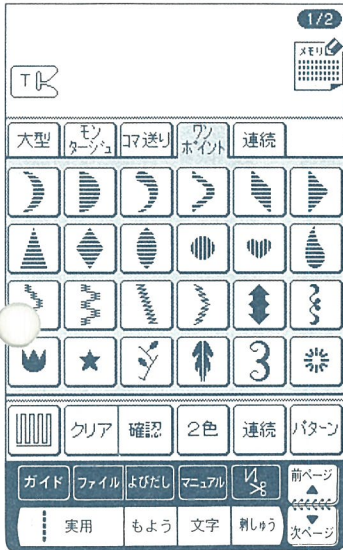


を押すと次の画面に、

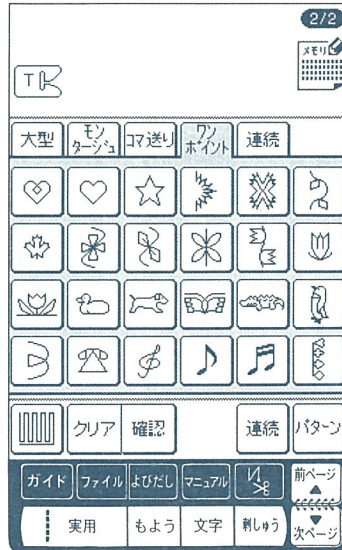


を押すと前の画面に戻ります。

1 番目の画面



2 番目の画面



● 2色 は



の模様に使えます。

● 連続 を押すと

連続模様になります。

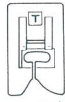
連続もようぬい

使う模様

連続

を押してから
選びます。

使う押え



模様押え(T)



注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

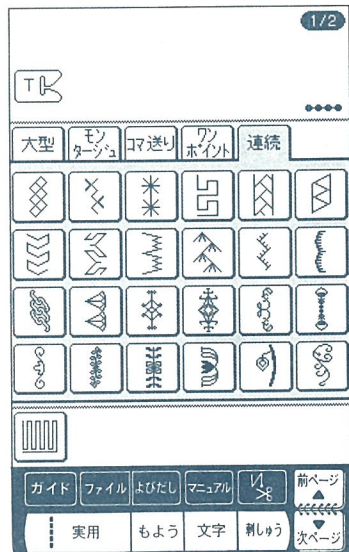


を押すと次の画面に、

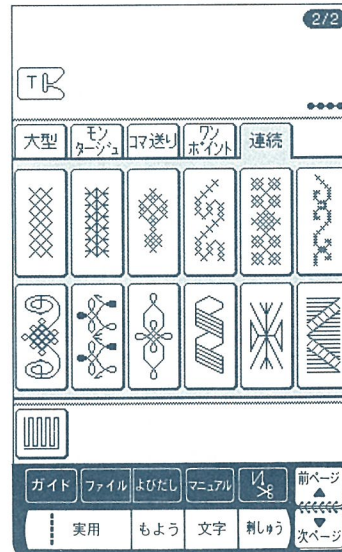


を押すと前の画面に戻ります。

1 番目の画面



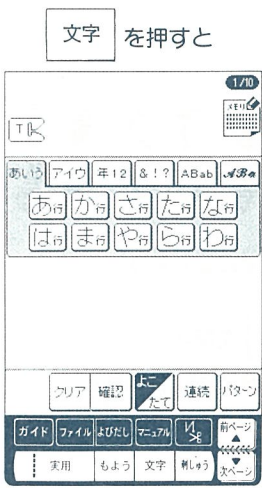
2 番目の画面



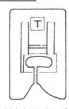
文字ぬい

使う模様

文字 を押してから
選びます。



使う押え



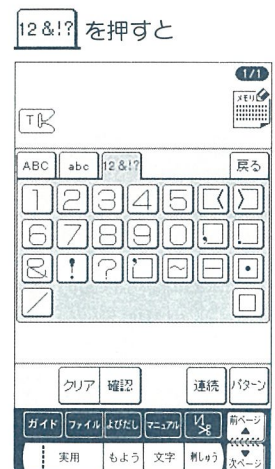
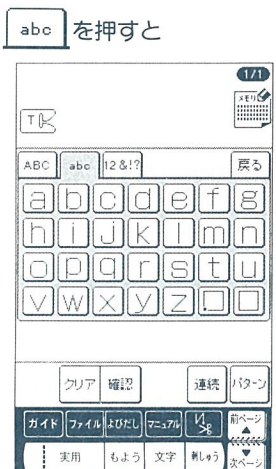
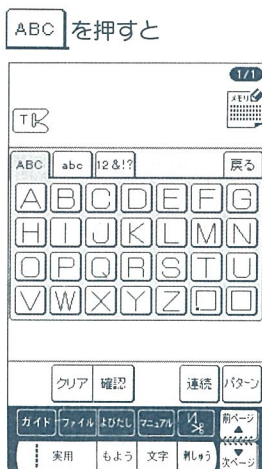
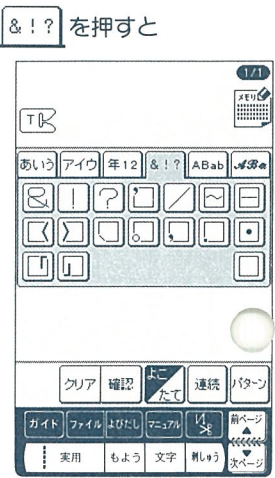
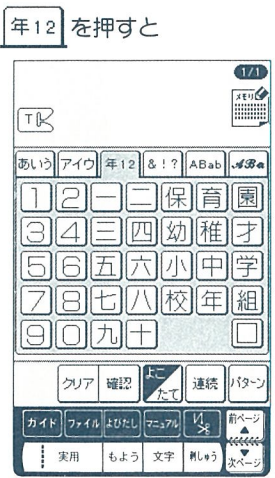
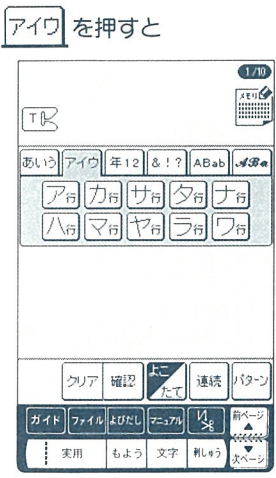
模様押え(T)

注意 押えの交換のときは
電源スイッチを切ってください。

画面上の あいう アイウ 年12 &! ? ABab あ3あ

ABC abc 12&! ?

あ3あ あc 12&! ? を押すとその項目の画面が現れます。



- 文字をまちがえて選んだときは、**クリア** を押して消します。
- 多くの文字を記憶したときは、**確認** を押して確認します。

● **大 小** を押すと

小さくなります。

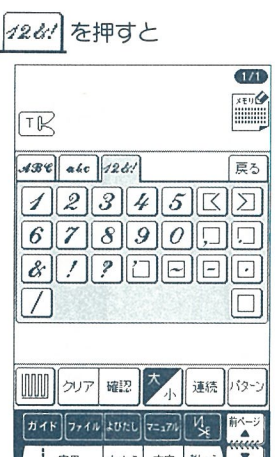
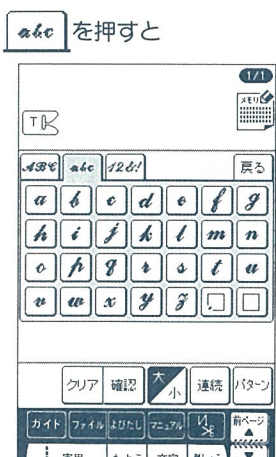
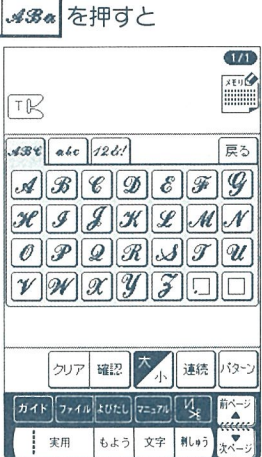
● **よこ たて** を押すと横書きが、
たて書きになります。
※これらのキーは二度押すと、
もとの文字になります。

自分のイニシャルなど、
ず〜と記憶させたいときは
ファイル キーを使います。

呼び出すには
よびだし キーを押します。

(53・54ページをご覧ください)

※ **戻る** を押すと最初の画面に戻ります。



※ **戻る** を押すと最初の画面に戻ります。